

平成29年3月31日

陸前高田市議会議長 様

陸前高田市議会議員 蒲 生 哲



政務活動概要報告書

政務活動費に関する取扱要領第6条第2項の規定により、平成28年度政務活動の状況について報告いたします。

記

I. 研修事業

(1)実施日 平成28年8月1日(月)～2日(火)

(2)場 所 〒170-0013 東京都豊島区 東池袋 1-6-4 伊藤ビル

(3)参加者 中野 貴徳、蒲生 哲

(4)行 程

8月01日(月) 陸前高田市7:00発→一関駅8:48→東京10:56→池袋12:00→研修→18:00 ホテル

8月02日(火) ホテル9:00発→議員会館→東京駅14:36→一関駅17:10→陸前高田着19:00

(5)研修項目

1. 議員・職員のための「質問力レベルアップ講座in東京」受講

(6)研修の概要

講師：土山 希美枝

龍谷大学政策学部准教授 龍谷大学政策学部准教授。法政大学大学院社会科学研究所政治学専攻〈博士課程修了〉博士(政治学)。専門分野は、公共政策、地方自治、日本政治。研究テーマは、変動する社会の構造と、政策、市民、政府の機能。〈政策・制度のネットワーク〉である公共政策の構造など。著書に『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年、共著に『対話と議論で〈つなぎ・ひきだす〉ファシリテート能力育成ハンドブック』公人の友社、2011年、『「質問力」からはじめる自治体議会改革』公人の友社、2012年など。「京都市市民参加推進フォーラム」座長、「草津市自治体基本条例検討委員会」委員長などを歴任。1971年北海道芦別市生まれ。

1. 一般質問の特性と機能

(1)自治体議員の「二つの顔」

(2)一般質問の監査機能・政策提案機能



2. 一般質問は機能しているか
 - (1) 一般質問の機能不全
 - (2) 機能不全の経緯と背景
3. 機能する一般質問のために
 - (1) 論点を具体化する
 - (2) 情報を収集する
 - (3) 質問の実践とフォロー
 - (4) つまり「いい」一般質問とは
4. 質問力から議会力へ
 - (1) いい一般質問は行政を変えるか
 - (2) 「議員ひとりぼっち」をこえる
 - (3) 議会の政策資源としての一般質問

(7) その他

所感

いい一般質問は、問いただす事によってまちをよくすること。問うことによつて何かをただす。一般質問の目標というのは、問いただすことによつてまちをよくすること。個別要求もしてはいけないということにはならない。しかしながら、個別要求だけでも困る。その個別の具体的な要求というのは、市民相談を受ける中で、市民相談として困り事を持ってこられた方が、実はそれはその人の状況だけの問題ではなくて、まちの課題としてこういう意味があることにつなげることが大切である。この困り事が起こっているな、単にここの道路が壊れているどうこうということではなくて、そういう状況がほかの地域でも起こり得る、あるいは起こっているのではないかと。そうなると、それは個別的要求ではなくて、まちをよくするための質問となります。一般質問をつくるときに何を問いただして、それによつてまちがどうよくなるのかという視点を入れること、それだけでも一般質問としての意義というか、意味というものが見えてくるし、そのことを執行部側や聞いている人、また市民と共有することができてくるのではないかなと感じました。

II. 管外行政視察

- (1) 実施日 平成 29 年 2 月 6 日(月)～8 日(水)
- (2) 場 所 鹿児島県南九州市知覧特攻平和会館
鹿児島神宮・国分城山公園
霧島市役所行政視察
熊本市陸上自衛隊健軍駐屯地
熊本市益城町議会行政視察

- (3) 参加者 新志会 会長 菅原 悟 幹事長 菅野 稔
 会 員 伊藤明彦
 無会派 蒲生 哲 4人

(4) 行 程

2月6日(月) 陸前高田市5:30発～新花巻駅新幹線07時28分(はやて112号)～東京駅10時11分着～浜松町モノレール～羽田空港着～羽田空港11時45分(JAL647)発～鹿児島空港13時45分着～知覧特攻平和会館～ホテルネクスステージ

2月7日(火) ホテル8:30発～鹿児島神宮～国分城山公園～霧島市役所市長室(市長との意見交換会)10:30～11時～市役所会議室(ジオパークと観光振興について)11:00～12:00～昼食～陸上自衛隊健軍駐屯地(国防と震災に対する活動)～ドリーイン熊本
2月8日(水) ホテル発～熊本県益城町役場(震災復興と今後の課題)09:30～10:40～熊本空港11時40分発(JAL2380)～伊丹空港12時45分着～伊丹空港13時15分発(JAL2185)～いわて花巻空港14時35分着～新花巻駅～陸前高田市役所16時40分着

(5) 調査項目

- ① 知覧特攻平和会館 世界恒久平和について
- ② 鹿児島神宮・国分城山公園 観光資源について
- ③ 霧島市役所 市長との意見交換について
- ④ 霧島市役所 ジオパークと観光振興について
- ⑤ 陸上自衛隊健軍駐屯地 国防と震災に対する活動について
- ⑥ 熊本市 益城町役場 震災の復旧と復興について

(6) 調査概要

2月6日 午後3時30分より鹿児島県南九州市知覧特攻平和会館へ入館し、この知覧特攻平和会館は、第二次世界大戦末期の沖縄戦で、人類史上類のない爆装した飛行機もろとも敵艦に体当たりした陸軍特別攻撃隊員の遺影、遺品、記録等貴重な資料を収集・保存・展示して当時の真情を後世に正しく伝え世界恒久の平和に寄与するものです。沖縄戦で特攻戦死された1,036人の隊員は、知覧基地を主軸として万世・都城基地から、第八飛行師団は台湾各基地、義烈空挺隊は、健軍(熊本)1基地から出撃したといわれています。1945年3月27日から4月18日までの23日間、知覧基地で特攻隊の奉仕を命じられた知覧高等女学校3年生の少女たち。校章がなでしこの花であったことから「なでしこ隊」と呼ばれました。彼女たちの任務は、特攻隊員のために掃除・洗濯・給仕・裁縫などの世話をし、彼らの「死への出撃」を笑顔で見送ること。死にゆく若者を次々と見送り続けるのは、当時15歳の少女たちにとって、辛く悲しい日々との事でした。しかし彼女たちは特攻隊員にとって、かけがえない存在となっておりましたが、それにより、少女たちは特攻隊員の壮絶

なる苦悩を共有しともに戦ったことが感じられ改めて戦争の悲惨さを突き付けられた思いでした。

2月7日 前田霧島市長との意見交換会をする前に、鹿児島神宮参拝しその足で、霧島市国分にある城山公園へ、城山公園管理事務所は、公益社団法人霧島市シルバー人材センターが管理運営しており、市街地から車で約5分のところにあり、北に霧島連山、南に櫻島の雄姿と波穏やかな錦江湾。そして、眼下に国分平野を望む高さ192メートルの高台にある公園。素晴らしい観光資源が存在している。

その後、霧島市へ訪問、霧島市役所市長室で前田終止市長と会い、観光振興(ジオパーク)や市政運営について意見交換会を11時まで行われました。

※ コア人材たる職員に期待する

スピード感とコスト意識を持った問題解決のできる職員が求められる

鹿児島県霧島市は、平成17年11月7日、国分市と始良郡溝辺町・横川町・牧園町・霧島町・隼人町・福山町の1市6町が合併して誕生した。県のほぼ中央部に位置し、北は多数の温泉が湧く霧島連山が広がり、南は錦江湾に臨むという多彩な自然も大きな特色である。旧牧園町長から初代霧島市長となった前田終止氏は、協力なリーダーシップで行財政改革や産業振興を進めると共に、近隣自治体も巻き込みながら防災や観光振興などの広域課題にも積極的に取り組んでいる。

※ 児童会長時代の体験が政治家をめざす原点

※ 超党派で観光振興 議員連盟を創設

※ 現場とリーダーの双方を動かすサンドイッチ作戦

※ 全国広報コンクールで8年連続の入賞

※ 「市長とランチで語イもんそ会」を111回にわたって開催

※ 広域連携による課題解決をめざし環霧島会議、錦江湾奥会議を設立

※ 常に経営的視点で改革・改善に取り組む挑戦者をめざす

◎ 霧島市の役10年の主な成果

- ・ 人件費の削減～役202億円(職員・議員・特別職の削減による)
- ・ 職員数の削減～306人(合併時1,431人→H28.4:1,125人)削減率:△21.4%
- ・ 議員数の削減～(合併前120人)合併時48人→34人→H29.1現在25人(定数26人)
- ・ 霧島市への移住定住者の増加～移住定住478世帯、1,186人増加平成28年12月末
- ・ 新規雇用の創出～新規雇用1,899人、プラス500人以上を創出 平成28年12月末立地協定52件 事業所枠の拡大24社
- ・ 施設管理の節減～4億9千万円削減、利用者20%増加(平成27年度末)指定管理者を導入し168施設で実施

- ・ 市民との対話～234回、5,300人(平成28年12月末)
- ・ 行政改革への取り組み～霧島市のあるべき姿を創造するための指針として行政改革大綱を策定し、これを具現化するために275の取り組み項目を掲げ、8割以上の項目に対応
- ・ 市債残高の縮減～182億円減少(平成17年度末804億円→平成27年度末622億円)
- ・ 基金のかん養～83億円の積み立て(財政調整に活用可能な3基金(財政調整基金、減債基金、特定建設事業基金)の積立(平成17年度末78億円→平成27年度末161億円)

◆ 霧島市の課題

- ・ 人口の市街地への集中化
- ・ 公共施設の適正化
- ・ 地方交付税特例措置の縮減による予算配分

◆ 新たなる挑戦18項目を掲げ

- ・ 再生可能エネルギー導入促進で電力100%の地産地消のまちに
- ・ 世界ジオパークへの挑戦等

市長との意見交換会終了後、公益財団法人日本相撲協会元大関

霧島 陸奥一博氏が市長室へ訪問し、今後の交流についても懇談いたしました。

その後、会議室において 霧島市役所商工観光部 霧島ジオパーク推進課

課長 坂之上浩幸より霧島ジオパーク推進連絡協議会発行の資料を基に

霧島ジオパークの魅力とテーマと題して12時までご講演をいただき研修を深めました。所感として、ジオパークの今後の見通しが不透明な部分があると感じました、何れは民間で行う事を想定はしているものの、その先進地である霧島市においても模索している段階である事はジオパーク構想にはまだ、課題があるものと感じました。

昼食後、移動し、熊本県東区陸上自衛隊健軍駐屯地へ15時より駐屯地広報館室で

吉本2等陸佐氏より健軍駐屯地の施設・史跡・国防の活動・災害支援の活動等

プロジェクターで説明を受け、その後施設見学として、義烈空挺隊 慰霊碑を黙祷さらには、機械・器具製作所を案内いただき、16時30分ホテルへ向いました。

義烈空挺隊とは、国内最初の落下傘部隊である挺進第一連隊第4中隊を以って編成し、第2次世界大戦末期、沖縄に進駐した連合軍を撃滅するため、既に敵の手中にあった沖縄北(読谷)沖縄中(嘉手納)両飛行場を奪還するため昭和20年5月24日金峰山に日没する頃、健軍飛行場を勇躍出撃し両飛行場に強行着陸し勇戦敢斗ののち玉砕した部隊のことである。この碑は祖国の悠々を信じ殉国した先輩を永遠に顕彰するため建立されたものである。

所感として、第2次世界大戦の末期の建屋がそのままの姿で残されており現在も使用されていることに驚きを隠せませんでした、所謂「特攻」が、この健軍基地からも出

撃されたことは、あまり知られておらず、沖縄に上陸し白兵戦を持っての特攻があったことは今回の視察で初めて知る事になりました。

2月8日(水) ホテルを出発し、熊本県益城町役場3階中会議室において平成28年熊本地震について行政視察を行いました。

最初に、益城町議会議長稲田忠則氏より挨拶をいただき、その後新志会会長菅原悟より挨拶し、議会事務局より平成28年熊本地震による益城町の被害状況等の説明を受けました。

※ 地震の概要

4月14日21時26分頃 マグニチュード6.5 震度7 立て揺れ

4月16日 1時25分頃 マグニチュード7.3 震度7 横揺れ

※ 地震活動の状況(震度4以上の地震の発生推移)

4月が 98回 5月8回 6月5回 7月1回 8月2回 9月2回

10月0回 11月1回 12月0回 1月1回

※ 人的被害(1月24日現在)

	熊本県	益城町
死者	145名	※34名
行方不明	0名	0名
重傷者	948名	116名
軽傷者	1,430名	31名

※ 警察が検視により確認している死者数20名

※ 災害による負傷の悪化又は身体的負担による疾病による死亡したと思われる死者数 14名

※ 建物被害の状況(1月11日現在)

全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	総計
3,503件	993件	2,730件	4,437件	11,663件

※ 最近の状況 関連死 二次

熊本市	50名	140名	5名
益城町	20名	14名	

最後に震災による復旧・復興について意見交換をし、お互い共有し頑張っていく事をお話し、伊藤明彦議長より行政視察の御礼とお互い頑張っていく事を誓え3日間の行政視察報告といたし、以上もって今後の陸前高田市の市政運営に精進していきたいと思えます。

本年度4月11日に発生した熊本大分地震の被災地益城町の行政視察を行い、被災役場や民家家屋などを見ると、10か月以上経過しても被災家屋の撤去や市道等の復旧は未だ進んでいない印象を受けました、特に一般家屋においても全壊とほぼ無傷の家屋が隣通しに点在する事や、地域によりほぼ全壊の場所もあり、同じ地域内といえども

被害状況に雲泥の差がある事が復旧の遅れにつながっていると感じました。私たち東日本大震災を乗り越えてきた被災者だからできることがあれば申し送り頂くことを、議会事務局長とお話いたし、後ろ髪を引かれる思いで熊本を後にしました。

この研修を糧に、本市の新たな再生に向け精進してまいることを申し上げ、わたくしの研修の活動報告といたします。